

環境報告書に対する監事監査意見書

Auditors' Review

環境報告書に開示する内容の信頼性を高めるために、監事監査の一環としての環境監査を経て環境報告書を発行しています。

監事は、環境活動を取りまとめた環境報告書は理事長をはじめ役職員の環境に関する業務執行の結果であるとの認識のもと、年間を通じた環境監査を実施しており、環境報告書発行にあたり環境監査結果を環境報告書に対する監事監査意見書としてまとめています。

独立行政法人農業環境技術研究所「環境報告書 2012」に対する監事監査意見書

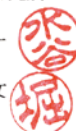
平成 24 年 9 月 3 日

独立行政法人農業環境技術研究所
理事長 宮 下 清 貴 殿

独立行政法人農業環境技術研究所

監事 水 谷 順 一

監事 堀 雅 文



水谷、堀の両名は、独立行政法人農業環境技術研究所作成の「環境報告書 2012」について、業務監査の一環として行っている環境監査の結果と併せて監査を行い、協議の上、本監事監査意見書を作成しました。

以下の通り報告いたします。

1. 環境監査の目的

当研究所は、事業そのものが環境に関する研究であります。よって、当研究所の作成する「環境報告書 2012」は、理事長はじめ全職員の業務執行の結果そのものであると認識し、監事監査の対象としました。監査の目的は、同報告書の信頼性を独立した立場から監査し、その結果を報告することです。

2. 監査項目と監査方法

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

- * 監査報告書作成担当部署以外の評価部署の評価体制とその実態
- * 評価部署における評価項目と評価内容

(2) 監査報告書の内容の信頼性について

業務監査の一環として、環境マネジメントシステムの有効性・機能性および法令・規則の遵守状況を、関連会議の出席、重要資料の閲覧、現場往査等の方法で監査を行っています。その業務監査の結果と、その基礎になる関連資料と本環境報告書の内容（環境マネジメント、各種環境パフォーマンス数値等）との整合性について監査しました。

3. 環境監査の結果

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

環境報告書作成部署とは別の部署である監査室が環境報告書を評価する体制をとり、新しい「環境報告ガイドライン(2012年度版)」（環境省）に基づき、「環境会計ガイドライン(2005年度版)」（環境省）を活用し、適確且つ忠実に自己評価していることを認めます。

(2) 環境報告書内容の信頼性について

2011 年度から第Ⅲ期中期計画開始で R P の再編があり、10 R P 内容と年度毎の「研究トピック」を紹介し、環境会計情報に踏み込んだ新内容は、信頼性を高める上で昨年度より一歩向上しています。電気事業法に基づく節電実行委員会の節電成果、研究本館受変電設備更新・改修工事のエネルギー監視機能向上と経済性は高く評価します。東京電力福島第一原発事故で広範な地域に飛散した放射性物質による農地土壌の汚染状況の測定と汚染マップ化、国・県等に依頼された農産物・土壌の放射能の測定や検出要因解析は膨大な作業でしたが全うし、農業環境面から「国民の食の安全」に多大なる貢献実績を残しました。特筆すべき評価項目です。次回は環境会計情報の更なる充実、同居する他の研究機関と協力した節電対策や合同防災訓練の継続と向上に関して記載内容が充足されることを期待しています。

以上